

# 新しい「しごと暮らし」、始めました。

## 地域の架け橋に なるため奮闘中！

郡山市

郡山市在住 中潟 亮兵 さん



年齢◎23才 職業◎郡山市臨時職員 世帯構成◎本人  
出身◎東京都世田谷区



仕事中の様子



「郡山達瀬ふじみ野net文京スマイル」の活動



大学の仲間たちと

郡山は、首都圏とのアクセスに優れ、商業施設も多く生活が便利な一方で、郊外には豊かな自然環境が広がっている。都市と田舎のバランスが取れているところが大きな魅力の一つと語る中潟さん。関東地方の大学に在学中、ゼミ活動の一環で郡山市達瀬町を訪問し、農業体験や地域おこし活動を経験し、住民の皆さんとの交流が深まる中、同町への移住を強く意識することに。大学4年の春、特に将来の夢や目標を考えることもなかった自分を変えてくれた郡山で暮らそうと決意し、大学卒業後、間もなく移住。「移住するには、まず仕事。そこで、大学の仲間や郡山で知り合えた人たちの支援で、今の仕事を見つけてあげることができた。郡山だからできたことだと思う。仲間作りは大切。」とのこと。

郡山市へ移住後、市の臨時職員として農業振興に関する業務に従事する傍ら、かねてから構想を練っていた「人や地域をつなぐ活動」をするため、「郡山達瀬ふじみ野net文京スマイル」を立ち上げ、グリーンツーリズムや地域おこしのセミナーを開催するなど、積極的に活動しています。「自然豊かで人情味のあるこのまちで、人や地域をつなぐ架け橋になりたい。」そう願う中潟さんの視線の先には、地域が輝く郡山市の未来がはっきりとイメージできているようでした。

## 協力隊活動で得た チカラも、 これからの生かす。

小野町

小野町在住 古崎 泰介 さん



年齢◎29才 職業◎新聞販売業 世帯構成◎本人・妻  
出身◎埼玉県所沢市 趣味◎ドライブ・テニス



埼玉県のメーカーで営業担当をしていた古崎さんは、当時中国や東南アジアに出張する機会がありました。海外の様子を目にする中で、日本の良さを再確認し、趣味のドライブで地方の道の駅をめぐるようになったことから、地方へ移ることを考えるようになります。その後、地域おこし協力隊の制度を知り、両親が福島県出身のため、福島県内の募集を探していたころ小野町に出会いました。

そして平成26年、小野町地域おこし協力隊に就任します。古崎さんは当時のことを「知人・友人・親戚が一人もいない地域で、新しい人間関係を築くことに不安がありました。」と振り返ります。しかし、自身の温和な性格と積極性で知り合いの輪を広げ、町産食材を使った新名物の開発や、移住促進イベントでの情報発信など、町を盛り上げるための活動を積極的に行っていきました。「小野町の人々との出会い、隊員としての活動経験、そしてそれを通して自己の成長は、私の大きな財産です。」

隊員の任期を終えた今は新聞販売業に従事しているため、21時前に就寝し2時すぎに起床するという生活。「よく『大変だね』と言われるけれど、お客様である地域の方々に訪ねて、顔を合わせたりとりができることに、この仕事のやりがいや魅力を感じています。」と語る古崎さんから、移住を考える方へのメッセージです。

「転勤などによる引越すと、移住は、全くの別物。移住することには、人生を大きく変えられるくらいの可能性があるはず。移住後、自分らしい人生を実現させることへの期待感を持って、ポジティブに計画を進めてみてはいかがでしょうか。」

## 大自然も 満喫しながらの トマトづくり。



猪苗代町在住

安藤 剛 さん

年齢◎41才 職業◎トマト農家 世帯構成◎本人・妻・子供2人 出身◎東京都



年齢◎41才 職業◎トマト農家 世帯構成◎本人・妻・子供2人 出身◎東京都



19歳のころから裏磐梯のスキー場でインストラクターをしていたという安藤さんは、磐梯山周辺エリアの魅力にとりつかれた一人。平成16年、猪苗代に1ターニン。スキースクール時代の同僚と3人で、春から秋は農業、冬はスキー場で働くという生活を始めたそうです。「農業の経験がなかったので、1年間研修を受けました。次の年にほうれん草に挑戦したのですが失敗。正直、途方に暮れました。」と苦難のスタートだったようです。そんな時、地元の方が親身に相談のつてくれ、磐梯トマトの栽培方法を教えてくれた上に、あらゆる面で面倒を見てくれたそうです。

現在は15aの磐梯トマトを栽培し、毎年試行錯誤を重ね経験を積んでいます。「磐梯山を正面から見ながら仕事をしています。これは気分がいいですね。」と語る安藤さん。「20代の頃、猪苗代町に冬だけ訪れていた時は気づかなかったのですが、移住してみると、四季の移ろいに本当に感動しました。」

お気に入りの風景は自身の畑から見る磐梯山。山の裾野まではっきり見えるそうです。夏は磐梯山を見上げながら、冬は逆に磐梯山を見下ろしながら、自然の美しさを実感し仕事をしています。二人のお子さんも大自然の中ですくすくと元気に育っています。

「湖もあって山もあってという地形はなかなかありません。ここでは他に見られない美しい風景を日常的に見ることができます。」と話してくれました。

## 家族全員の 田舎暮らしも満喫中。

天栄村在住

佐々木 貞治 さん  
綾 さん



職業◎自営業 世帯構成◎夫・妻・子3人・妻の母  
出身◎貞治さん(千葉県)・綾さん(東京都)  
趣味◎仏蘭巡り

東日本震災のボランティア活動の際に、たまたま訪れた天栄村。その際に食べた天栄村の米のおいしさに感動し、移住したいと思うようになったきっかけであり決め手でもあると話す佐々木さんご夫妻。その後も体験ツアーやお試し住宅利用等で訪れ、平成29年春、子どもも中学校進学と小学校6年に進級するタイミングに合わせて家族で移住をしました。

これまで何度も天栄村に通い、豊かな自然や子育て環境が気に入ったことや地域の方がよくしてくれたこともあり、不安はなかったとのこと。「強いて言えば、学校やスーパー、病院等が遠いというのが不便かと心配でしたが、住んでみると信号の無い田舎と東京とは同じ車移動でも距離感が全く違うので不便は感じなかったです。」と、笑顔で話してくれました。

お二人は、それぞれ会社を経営しており、「ガンガン稼ぐというよりは家族でちゃんと生活していければOKというスタイルに変わったかな」と貞治さん。綾さんも「都会では仕事を頂けたための営



天栄村



村イベント時の  
出展の様子



農業体験ほ場での活動の様子

業経費が物凄く高かったと思うのですが、天栄村に来てからは売上が減っても経費がそれ以上に減ったので、意外と利益は変わりません。」と、現在も月に数回は東京へ通い、田舎暮らししながらの会社経営を行っています。

今年8月には天栄村でカフェ「溢れる家」をオープン。村のお米や野菜を使用したランチプレートや東京から仕入れる洋服や雑貨等いろいろと取り揃えられており、楽しく、過ごしやすい場所を提供しています。

【最後に一言】  
貞治さん「旅行ではわからない部分もあるのですが、その土地の人と会ってみることが一番大事かなと思います。私自身お試し住宅やツアーが移住検討の後押しになりました。」  
綾さん「私は東京の人にこそ天栄村に来てほしいと思います。都会育ちの私の移住体験をみんな生き方もあるんだよって直接伝えたいですね。何だったらうちに電話してくださいって感じですよ(笑)」

こおりやま広域圏内に移住した皆さんに、地域の魅力や地域での生活などについて伺いました。